

一般社団法人 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会

2023 年度 定例代議員総会議事録

日 時：2023 年 11 月 30 日（木）17：30～18：45

会 場：ホテルメトロポリタン仙台 4F 千代南

形 式：会場ならびに Zoom オンラインの併用

代議員数：215 名

出席者数：160 名（本人出席 93 名、委任状出席 67 名）

出席理事：安藤守秀、石川朗、石塚全、植木純、大平徹郎、桂秀樹、川山智隆、菊地利明、黒澤一、
神津玲、権寧博、近藤康博、関川清一、高橋仁美、竹川幸恵、田邊信宏、玉木彰、
中野恭幸、仲村秀俊、中山勝敏、平井豊博、福家聡、堀江健夫、吉田 誠
（計 24 名）

欠席理事：中西徳彦（計 1 名）

出席監事：岩永知秋、陳和夫、長谷川好規 （計 3 名） （五十音順、敬称略）

議事開始について：

理事のうち、安藤守秀、石川朗、石塚全、植木純、大平徹郎、桂秀樹、川山智隆、菊地利明、
黒澤一、神津玲、権寧博、近藤康博、関川清一、高橋仁美、竹川幸恵、田邊信宏、中野恭幸、
仲村秀俊、平井豊博、福家聡、堀江健夫の各氏ならびに監事の陳和夫、長谷川好規の各氏は会場
にて出席、理事のうち玉木彰、中山勝敏、吉田誠の各氏ならびに監事の岩永知秋氏は Zoom にて
出席した。代議員 130 名は会場にて出席（委任状参加者 67 名含む）、代議員 30 名は Zoom にて
出席した。

定款第 17 条により議長には植木理事長がついた。また、本代議員総会の成立条件である定足数に
ついては、定款第 19 条第 1 項により「代議員総会の決議は、総代議員の議決権の過半数を有する代
議員が出席し、出席した当該代議員の議決権の過半数をもって行う」となっており、総代議員現在
数 215 名の過半数である 108 名（委任状含む）の出席が必要であるが、本日の総会は、代議員出席
者 160 名（委任状提出者 67 名含む）であり、過半数の 108 名を上回った。

よって本代議員総会は有効に成立し、以下の議案について随時審議した。

第 1 号議案 議事録署名人の選任について〔審議事項〕

定款第 23 条により、「代議員総会の議事については、法令の定めるところにより、議事録を作成
する。議長および代議員総会において選任された議事録署名人 1 名は前項の議事録に記名捺印する」
とあり、34 回会長を務められる近藤康博理事が推薦され承認された。

第 2 号議案 学術集会について〔報告事項・審議事項〕

第 33 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会について、黒澤会長より資料 1 頁以下
記載の通り、特別講演・特別企画・特別報告等のプログラム数や内容の紹介等準備状況の報告があ
った。

第 34 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会について、近藤会長より資料 9 頁に記載のとおり、開催について準備状況の報告があった。

第 35 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会について、大平会長より、会期・会場について、新潟県新潟市の朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンターにおいて 2025 年 10 月 24 日(金)～25 日(土)において開催したいとの報告があった。

第 36 回学術集会会長については、本日開催の理事会で仲村秀俊先生(埼玉医科大学呼吸器内科)が推薦されたことが報告され、本会に諮った結果、承認された。

第 3 号議案 学会賞・学会奨励賞受賞について [報告事項・審議事項]

黒澤学会賞選考委員長より、選考結果について報告があった。学会賞 3 件、学会奨励賞 4 件の応募があり、委員会、理事会で審議した結果、学会賞 2 件、学会奨励賞 3 件が本会に諮られ承認された。

受賞者を以下に記載する。

<受賞者> (敬称略)

学会賞：恵友会 霧ヶ丘つだ病院 (代表 池内智之)

研究業績題目：過去から未来へつなぐ 呼吸リハビリテーション

京都大学肺移植呼吸リハビリチーム (代表 大島洋平)

研究業績題目：肺移植前後における骨格筋障害の臨床的意義 と

呼吸リハビリテーションの可能性

学会奨励賞：柳田頼英 (豊橋創造大学保健医療学部理学療法学科)

研究業績題目：誤嚥性肺炎入院患者の生存ならびに身体機能低下リスクに関する研究

濱田哲 (京都大学大学院医学研究科呼吸不全先進医療講座)

研究業績題目：呼吸管理に関する新しい知見～持続陽圧呼吸療法から

Servo-ventilation まで～

今戸美奈子 (日本赤十字社高槻赤十字病院)

研究業績題目：慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難のセルフマネジメント

能力向上を目指した取り組み

第 4 号議案 医療の質特別賞受賞について [報告事項・審議事項]

堀江診療報酬適正化委員長より、選考結果について報告があった。一次選考 97 演題、二次選考 90 題があり、委員会で審議し、理事会で承認した結果、資料記載の 6 件が本会報告された。

受賞者を以下に記載する。

<受賞者> (敬称略)

[呼吸リハビリテーション領域]

演題名：早期離床のタイプと開始時間が ICU 患者の治療経過に及ぼす影響の比較

筆頭演者名：萩森康孝 (松山市民病院) 職種：理学療法士

演題名：本学会員を対象とした急性期呼吸リハビリテーションの現状に関するアンケート調査

筆頭演者名：及川真人 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科) 職種：理学療法士

[酸素療法・呼吸管理領域]

演題名：当院における COVID-19 流行期の NPPV 導入の経験

筆頭演者名：藪野雄紀（大阪府済生会中津病院） 職種：臨床工学技士

[疾病管理領域]

演題名：「COVID-19 セット」による全診療科型標準的治療の提供

筆頭演者名：高木聡（日本医科大学武蔵小杉病院） 職種：看護師

[その他の領域]

演題名：高齢 COPD 患者における就労と身体活動性および CAT との関連性

筆頭演者名：村上知征（東北医科薬科大学若林病院） 職種：作業療法士

演題名：地域在住高齢者の呼吸サルコペニアと咳嗽力について～口腔機能を含めた評価～

筆頭演者名：山口育子（東京医療学院大学） 職種：理学療法士

第 5 号議案 2022 年度事業報告〔報告事項〕

① 2022 年度事業報告

議長の指名により、事務局から配付資料に基づき 2022 年度の事業報告がなされ、学術集会・地方会の開催や学会誌の発行等が報告された。

② 会員数の推移状況

議長の指名により、事務局から、資料 P16～18 にかけて職種別・支部別・都道府県別の一般会員数について報告があった。2022 年度も過年度からの継続した新規入会数の伸び悩みもあって 4,177 名になり、ピーク時（2018 年度）より 375 名の減少となったことが報告された。

第 6 号議案 2022 年度決算報告〔報告事項・審議事項〕

配付資料に基づき、権財務委員長より決算報告がなされた。2022 年度は、第 32 回学術集会で収支拮抗ならびにスキルアップセミナーが厳しい収支となったものの、行事全体では黒字を確保したことや経費節減の効果もあり、前年度より 318 万円上回る 956 万円の当期経常増減額となった旨の報告があった。長谷川監事より監査報告があり、本会に諮った結果 2022 年度決算は承認された。

第 7・8 号議案 2023 年度事業計画ならびに修正予算（案）〔報告事項〕

議長の指名により、事務局から、配付資料に基づいて 2023 年度事業計画案が報告された。続いて、2023 年度修正予算について報告がなされた。2023 年度については、ホームページ運営費やマニュアル事業費等で支出を見込むため、赤字予算を組んだことが報告された。

第 9 号議案 名誉会員・功労会員候補について〔審議事項〕

<2023 年度>

名誉会員候補：塩谷隆信先生（東北支部）

功労会員候補：植木純先生（関東支部）

理事会から推薦された 2023 年度の候補者全員が承認された。

第 10 号議案 理事会報告〔報告事項〕

議長の指名により事務局より、33 頁記載の配布資料に基づき、昨年 11 月 10 日開催ならびに本年 8 月 26 日開催の理事会での審議結果について説明があり、11 月開催の理事会で国際化委員会から付議された 32 回学術集会での海外演者の動画配信において保留があったものの、それ以外の議案では承認可決されたとの報告があった。

第 11 号議案 各種委員会報告〔報告事項〕

① 総務委員会報告

植木総務委員長から 8 月 26 日に開催した委員会ならびに本日開催委員会での審議内容について報告があった。第 36 回学術集会会長については、第 2 号議案で報告した通り仲村秀俊先生を推薦した。名誉会員・功労会員については、第 9 号議案で付議した 2 名の先生方の推薦を決定した。理事長補佐職の設置、編集委員 AE 職 4 年以上経験者に名誉・功労会員推薦基準での加点が承認され理事会に提案し承認されたとの報告がなされた。

② 将来計画委員会報告

近藤委員長より、資料に基づいて新規会員獲得の増強、他学会との連携強化、学会資格の積極的発信等を進める旨の説明があり、本委員会内の小委員会として多職種連携推進小委員会を設け、職種別部会の検討、メンバー構成等について説明がなされた。

③ 財務委員会報告

権財務委員長から 7 月に開催された委員会審議について、第 32 回学術集会決算報告、第 33 回学術集会予算、2023 年度予算案について審議した結果、承認された旨の報告がなされた。また、10 月から導入されたインボイス制度の学会への影響について委員会で審議し、謝金規定について同制度に併せて改定を提案し承認された旨の報告があった。

④ 編集委員会報告

黒澤編集委員長から、論文査読者への上級呼吸ケア指導士単位の付与、優秀論文賞の新設、追悼文掲載の運用ルール策定、校正チェックポイント編集委員会版の情報共有、用語集第 5 版の掲載、用語集に基づく略語テンプレート作成と公開、論文審査、掲載論文内訳、転載許諾状況について報告がなされた。

⑤ 呼吸リハビリテーション委員会報告

植木委員長より、2022 年度実績として、第 16 回呼吸リハビリテーション研修会は、COVID-19 禍で 2022 年度も未開催で翌年度に延期したこと、「呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル」を出版したこと、COVID-19 に関する呼吸リハビリテーション全国調査を実施したことなどの報告がなされた。

2023 年度計画として、第 16 回呼吸リハビリテーション研修会を 2024 年 2 月 17 日に開催、

「呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアルのアップデート、呼吸リハビリテーション全国調査を 2023 年 11 月開催の APSR で報告し、学会誌にも掲載すること、呼吸リハビリテーションに関するステートメント 2024（呼吸リハビリテーションステートメント 2018 の改訂版）を日本呼吸器学会ならびに日本呼吸理学療法学会と共同で作成する予定である旨の説明があった。呼吸リハビリテーション認定施設の HP 掲載についても認定書の発行など今後の対応に向けて検討中であるとの報告がなされた。

⑥ シミュレーション教育推進委員会報告

植木委員長より、2022 年度実績として、第 1 回委員会を開催して、高機能の患者シミュレーション機器の現状確認を行い、今後の活動について検討した旨の報告があった。
2023 年度計画としては、委員メンバーの増強、高機能患者シミュレーター、ICT を使用した実技研修プログラムの構築について進めていく旨の報告があった。

⑦ 診療報酬適正化委員会報告

堀江診療報酬適正化委員長より、2022 年度の主な活動報告、2024 年度診療報酬改定提案では主学会として未収載 4 件、既収載 3 件の提案を行い、未収載の外来呼吸ケア管理料、同呼吸筋力測定、既収載の在宅ハイフローセラピー装置加算、同呼吸器リハビリテーション料、未収載の在宅経皮的血液ガス分圧測定 1, 2 および算定要件(1)イの修正は一次審査通過、未収載の在宅医療機器点検指導料は一次審査非通過、既収載の呼吸ケアチーム加算は評価対象外となったとの報告があった。その他、他学会が主の共同提案では、7 提案が一次審査通過、2 提案が非通過、1 提案が評価対象外との説明があった。

⑧ 広報委員会報告

福家広報委員長より、2022 年度の活動結果ならびに 23 年度の活動計画について説明があった。ホームページのリニューアルならびにスマホ対応を完了した旨が報告され、今後、関連コンテンツの見直しや英文ページの設置を進めていくとの説明があった。委員会では、お試し会員制度について業者提案をいただいたが、SNS 導入も含めて問題点の絞り込みを含めて引き続き継続して検討していくとの説明がなされた。

⑨ 呼吸ケア指導士認定委員会報告

大平呼吸ケア指導士認定委員長より、2023 年呼吸ケア指導士認定（初回・更新）、認定制度細則の改定、会員管理システムにおける呼吸ケア指導士関連の改修状況、認定講習会の Web 開催状況、GSK 医学教育助成金による実技講習会の単位付与申請、呼吸ケア指導士対象のアンケート調査ならびに 2024 年度の更新認定受付を 11 月より開始した旨の報告があった。

⑩ 呼吸ケアスキルアップセミナー実行委員会報告

桂呼吸ケアスキルアップセミナー実行委員委員長より、2022 年 11 月開催の第 9 回セミナーの

結果報告、また、本年 11 月開催の第 10 回セミナーの開催概要、第 6 回セミナー講演要旨の学会誌 31-2 号への掲載予定等が説明された。また、併せて会員を対象にした実践吸入指導コースのニーズ調査を実施し、11 回以降の内容検討の参考にする予定である旨の説明が成された。

⑪ 倫理・COI（利益相反）委員会報告

花岡倫理・COI（利益相反）委員長より、10 月 17 日に委員会を開催し、役員および第 34 回学術集会プログラム委員の COI 自己申告書の提出内容確認を行ったこと、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の具体的な周知について、第 34 回学術集会からの実施に向けて検討したとの説明があった。①第 33 回学術集会での特別企画として委員長による「研究発表における研究倫理と申告について」と題する講演、②学術集会のインターミッションスライドでの 34 回学術集会から実施の旨周知、③HP への申告書式ならびにフローチャートの掲載を行うことを決定した。

⑫ 国際化委員会報告

川山国際化委員長より、本年 8 月 26 日開催の理事会にて国際学会参加・発表のための教育動画の作成と配信について理事会で承認されたことを受けて作業に着手し現在進行中である旨の報告があった。また、HP の英文版作成についてはコンテンツを決定済みでスケジュールに沿って進めていくこと、国際化委員会で実施したアンケート結果について 33 回学術集会で一般演題として報告し、学会誌にも投稿する予定との説明がなされた。

⑬ 禁煙推進委員会報告

黒澤禁煙推進委員長より、昨期迄の活動実績として、禁煙宣言の公開、タバコ関連企業からの資金受入れ自粛、呼吸ケア指導士規則での非喫煙者規定化、呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアルの禁煙項目の執筆、禁煙推進学術ネットワークに加盟したこと、禁煙推進学術ネットワーク関連では、第 5 回禁煙推進学術ネットワーク学術会議を日本呼吸器学会、日本口腔インプラント学会と共同で 2023 年 10 月 1 日に開催した旨の報告があった。活動実績ならびに計画としては、各職種用のポケットガイドブックの作成を進めていること、学術集会での禁煙セッションへの対応では、特別教育講演として職域における禁煙推進と題して福島県での取り組みについての報告や、シンポジウムとして多職種による禁煙支援として禁煙支援マニュアルの作成意義について講演し卒煙についてのコツを多方面から委員により講演いただくことを予定しているとの説明があった。地域での禁煙啓発ニーズを探る（理事会でアンケート実施承認済）、アンケートについても準備でき次第実施する旨の説明があった。

⑭ 呼吸不全緩和ケア検討委員会報告

津田呼吸不全緩和ケア検討委員長より、2021 年 4 月に日本呼吸器学会と合同にて「非がん性呼吸器疾患の緩和ケア指針 2021」を公開、月間アクセス数も増加傾向にあること、その後の対応について、厚労省説明、診療報酬での緩和ケア加算の提案、関連学会との連携した周知を進めて

いるとの報告があった。また、日本呼吸器疾患患者団体連合会への対応として本年予定の陳情に向けて日本呼吸器学会と連携して陳情書の内容について意見具申していくとの説明があった。

短期 ①医学教育事業検討委員会報告

桑平医学教育事業検討委員長より、日本呼吸器学会と本学会の合同事業である e-ラーニングコンテンツ作成・公開（全タイトル収録済）の進捗状況ならびに本学会員の視聴状況（12,260 回）が報告された。

2016 年度 GSK 医学教育事業助成は、呼吸器疾患支援患者のセルフマネジメント支援マニュアルの作成を以て完了したことが報告された。

2020 年度 GSK 医学教育事業助成については、2022 年開催は 3 支部で北海道、東北、甲信越支部で開催、2023 年は、関東、東海の 2 支部で開催、2024 年は、近畿ならびに北陸、中国・四国、九州・沖縄の 4 支部で実施する予定との報告がなされた。

短期 ②呼吸リハビリテーション手技マニュアル作成委員会報告

神津委員長より、呼吸ケアカンファレンスのテキストを基にマニュアルを整備していること、メンバーに 1 名追加したこと、本年 12 月に委員会を開催し完成に向けて加速させる方針であるとの報告があった。

第 12 号議案 2024 年代議員選挙および理事選挙について

議長の指名により、事務局より資料 80 頁記載の代議員選挙、理事選挙の概要について説明があった。また、先刻開催された理事会で、関東支部長の権先生が選挙管理委員長に推薦され承認された旨の報告があった。

第 13 号議案 その他について

特になし

以上を以て、すべての審議は終了した。

上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款第 23 条第 2 項に基づき、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

2023 年 11 月 30 日

一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
定時代議員総会

議 長 植木 純 印

議事録署名人 近藤 康博 印